

石狩湾における2013-2014年の 上位蟹気楼発生状況

大鐘卓哉

(小樽市総合博物館、北海道・東北蟹気楼研究会)

1. はじめに

北海道の石狩湾では、1998年から継続的に上位蟹気楼の観察を行っている。これまでの観察成果については、研究報告[1][2]にもまとめている。2010年からは電子メールによるメーリングリスト[3]で、2012年からはFacebook[4]で、石狩湾における蟹気楼発生期待度予報や蟹気楼発生情報の配信を行っている。一般市民における蟹気楼への関心が少しずつ高まりを見せている。本研究では、2013年から2014年にかけて観察した石狩湾における上位蟹気楼の発生状況について報告する。

2. 調査

2013年4月から7月までと、2014年4月から7月までの期間、石狩湾岸の小樽市と石狩市の海岸にて、



図1. 小樽周辺の地図



図2. 2013年5月27日、小樽市の北防波堤から見た朝里の家並みの上位蟹気楼。(下：実景)

北海道・東北蟹気楼研究会メンバーの協力を得て、上位蟹気楼の観察・撮影を行った。また、小樽市高島にて、定点カメラを2台設置し、小樽市銭函方向と、石狩湾新港方向をインターバル撮影して、蟹気楼発生の確認を行った(図1)。

3. 結果

観察の結果、数多くの上位蟹気楼を確認した。その代表的な事例を以下に記す。

2013年5月27日には、北防波堤から見て距離が4~6kmの朝里の家並みが上位蟹気楼になり、双眼鏡を使わなくても異様な雰囲気が分かる状況であった(図2)。また、防波堤の延長方向である船浜町の家並みが、レンズ状に大きく歪んで見えた興味深い現象を確認した(図3)。

2013年5月31日には、高島から見た対岸の石狩湾新港方向が上位蟹気楼になった。海面が大きく盛り



図3. 2013年5月27日、小樽市の北防波堤から見た船浜町の家並みの上位蟹気楼。(下：実景)



図4. 2013年5月31日、小樽市の高島から見た石狩湾新港の上位蜃気楼。(下：実景)



図5. 2014年4月30日、小樽市の銭函から見た高島岬とトド岩の上位蜃気楼。(下：実景)



図6. 2014年5月28日、小樽市の高島から見た小樽市銭函の海岸林と手稲区の建造物の上位蜃気楼。(下：実景)



図7. 2014年6月1日、小樽市の高島から見た札幌市手稲区の建造物の上位蜃気楼。(下：実景)

上がりタンク群を隠してしまったり、タンク群が伸び上がって見えたりした(図4)。

2014年4月30日には、銭函から見た高島岬が上位蜃気楼になっていた。特に岬の先にあるトド岩の下部が反転し、島が大きくなったかのように見えた(図5)。

2014年5月28日には、高島から見た銭函の海岸林や札幌市手稲区の建造物の、反転像や大きな伸びを伴う上位蜃気楼を確認した(図6)。

2014年6月1日には、高島から見た札幌市手稲区の西部スラッジセンターの建造物が、大きく見えた(図7)。

参考文献：

- [1] 大鐘卓哉、2010、2008年の石狩湾における上位蜃気楼「高島おぼけ」の観測、小樽市総合博物館紀要、(23)、19-25
- [2] 大鐘卓哉、2013、2011年と2012年の石狩湾における上位蜃気楼「高島おぼけ」、小樽市総合博物館紀要、(26)、1-6
- [3] 石狩湾蜃気楼情報ネットワーク、
http://www.freeml.com/mirage_ishikariwan
- [4] 石狩湾蜃気楼情報Facebook、
<https://www.facebook.com/pages/石狩湾蜃気楼情報/175501699231424>